

福祉の風

山口県福祉用具供給事業者連絡協議会

福祉維新の風を
目指して～
創刊号
2008/5月

〇はじめまして

私たちは山口県内で福祉用具の販売やレンタルを取り扱う供給事業者の会として、県民の皆様へ介護保険にかかわる福祉用具の正しい知識の普及啓発と最新の情報をお届けし、地域福祉に貢献することを目的に平成17年度に発足いたしました。今年で早4年目を迎え、日常的には下関から岩国まで8つの圏域で各地域の活動を大成です。現在会員登録をします。県会として最大のイベント画、開催することで、初年度は目はセミナーパーク、3年目は下関市は美祢市民会館で開催し、そして今年度は、萩市の山口福開催されます。

また会の充実に伴い、今年度活動を広く皆様にお知らせするべししました。今後も福祉の充実の進みますので当会に参加し賜りますよう、お願い申し上げます。



から新企画として私たちの活
く、機関紙の発行を決定いた
ため努力と研鑽を重ね日々精
ております会員をお引き立
てます。

(以上 文責 海井)

〇これが現在の会員です。

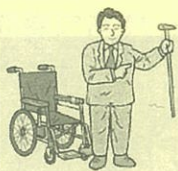
山口県福祉用具供給事業者連絡協議会

萩支部 ●は各地区 支部長

事務局 0838-22-2612 (萩 ひまわり)

山口支部

岩国支部



下関支部

宇部支部

周南支部

柳井支部

防府支部

株式会社 ひまわり
株式会社 モリワカ

合資会社 ふれんど
こすもすめーる萩店
● 有限会社 ひまわり
ホワイトクリーニング ハート・ケア事業部
あおば

株式会社 ホームケアサービス山口 山口店
済生会山口地域ケアセンター
在宅複合型施設やすらぎ福祉用具貸与センター
● 日本基準寝具株式会社 エコール山口営業所
有限会社 アイフィット山口
有限会社 ヤマグチ エム イー
有限会社 山口電動車販売
(有) メイコーセンター
岩多摩福祉事業部山口支店
あびあ介護サービスセンター (田村電機 (有))
フルケア成和 山口福祉事業所

● 海井医科器械株式会社
サンハイティ
有限会社 とみや福祉事業部
有限会社 アシスト
有限会社 松重商店
介護用品の店はーと・ふれんど
有限会社 双葉商事
ヘルスケアショップふたば
車いす販売 トミカフ
雅サービス
エヌ・エス・サービス営業グループ

エネックス株式会社
海井医科器械株式会社 宇部営業所
はんど宇部店
株式会社 スズキ自販山口
ニチイケアセンター厚南
株式会社 伊藤回生堂薬局
株式会社 ササキコーポレーション
常盤薬品株式会社
介護サービスセンター
西日本商事株式会社 山口営業所
オーパーツ介護サービスセンター
スマイル薬局
おだ福祉用具事業所
● 山口部品株式会社 いぎきサポート

株式会社 ナカニシ
● 株式会社 山口メディカル
株式会社 平和医療器械
有限会社 ケアメイト
有限会社 スマイル・ケア
有限会社 加賀メディカル

海井医科器械株式会社 周南営業所
ニチイケアセンター周南
有限会社 メディカルサービス
ヘルスレント周南ステーション
● 株式会社 周南調剤
指定福祉用具貸与事業所 元気
株式会社 ハツタ山口
JA周南

ケアメディカル さらや
● 有限会社 しらぎ
南すおう農業協同組合
指定福祉用具レンタル事業所



十月一日は
福祉用具の日!!

○第3回山口県福祉用具供給連絡協議会総会（平成19年10月13日美祢市民会館）



出席者 34事業所、
委任状 12事業所によって
第4期総会が開催されました。

第3期事業、会計、決算報告 第4期
事業、会計、予算案が承認されまし
た。
その他事項として、初年度入会金が無
料になりました。この機会に是非ご入
会ください。

○研修会

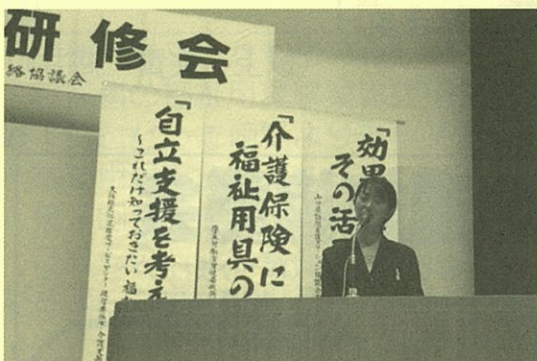
美祢の地はさすがに10月にしてはひんやりとした清涼な空気に包まれていました。受付、展示会場、壇上などの会場準備に各自それぞれ分担して走り回っておりました。

早朝よりの皆様のご協力ありがとうございます。

さあ、受付開始です。



① “効果的な福祉用具の選択と、その活用方法の実際”
～訪問看護師の立場から～



山口県訪問看護ステーション協議会 書記
アイユウの苑訪問看護サービス
管理者 廣瀬 春美 先生

辱蒼予防の話では具体的な商品名を挙げて、実体験に基づくわかりやすい話しぶりで、とても参考になる講演でした。廣瀬先生のような人なら、いつでも看護してもらいたいなあ～

②介護保険における福祉用具の適正な使い方

厚生労働省労健局振興課 福祉用具住宅改修指導官北島 栄二 先生
今回、北島先生のご講演をいただくのに、山口県出身の厚生労働省の方々に大変お世話になりました。美祢市出身のT氏、宇部市出身のN氏山口県の為なら、協力しますと、心強いお言葉をいただき、大変感謝しています。在県人として、当協議会も今一層の努力、発展をしたいと思います。

改正のあったベッド等の取り扱いについて「手続き」と「条件」という言葉を用いて詳しい説明をされました。



お昼休みとなり、休憩時間を利用して市民会館ロビーを中心に12社の福祉用具、福祉関連書籍の展示コーナーが設けられており、それぞれ来場者の人気を集めていました。

（以上 文責 板村）

午後から大阪住之江区在宅サービスセンター・理学療法士・介護支援専門員「谷口昌宏氏」の講演が行われました。



「根性バー（介助バーの事）」の紹介など関西弁でテンポ良く繰り出される言葉と身振りは、具体的な各機能を平易に説明され、初心者にも上級者にも満足してもらえる内容であったと思います。いつもながら具体的な道具を実際に示しながらの説明は現場の状況が見えてくるようです。それぞれ各講師の講話は楽しく多岐に渡り時には冗談を交えながら重要な事項を丁寧に解説いただくことができ最後まで充実した研修会となりました。

最後に日本福祉用具供給協会・山口ブロック長「板村宣芳氏」の閉会の挨拶を持って無事研修会を修了することができました。

ちなみに、運営にあたり早朝より多大なるご協力をいただきました、日本福祉用具供給協会・山口ブロックの会員の皆様、当会の会員ならびに賛助会員（出展メーカー各社）の皆様に熱く御礼申し上げます。（以上 文責 海井）

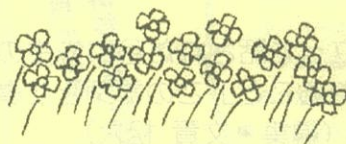
写真は研修会后 片づけの終わったスタッフをねぎらう谷口先生。力のこもった「単なる福祉用具の業者さんではなく、福祉用具の専門家として一流を目指して欲しい」の言葉に感謝、そして納得。



お礼 このたびの資質向上研修会には、たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。山口県福祉用具供給事業者連絡協議会ではこのような研修会を毎年各地で実施しており、このたびは美祢市民会館での開催となりました。

開催にあたっては、同年1月より準備を行ってきました。まずは開催日と会場の決定を行いました。今年は宇部支部の担当のため、宇部、山陽小野田、美祢地区での会場を探しました。会場の大きさや駐車場など条件にあう会場を次々とあたりました。ところが10月の時期は行事が多く、市の行事で会場を押さえられており、なかなか会場が取れませんでした。予約状況を詳しく聞くと、市の行事もあるだろうという予測だけで3月の年度替わりには確定すること。また予約は6ヶ月前からなのに、「10月は空いてません」といわれ矛盾を感じつつ、それでも仮押さえという形で何箇所かは候補地を探すことができました。そして3月に入り新年度の市の日程が決まると同時にようやく美祢市民会館を正式に予約することができました。講師の方との日程の調整も開催日時状況を見ながら行い、このたびは3人の講師に来ていただくことになりました。それから開催をお知らせするパンフレットや参加の案内の作成・配布を行いました。また会場や駐車場の詳細チェックや、進行の打ち合わせなど、協議会役員が何度も集まって準備を行って来ました。弁当の手配については、あらかじめ何種類か作ってもらい役員会の席で試食を行うなどして決定しました。

このように、研修会に向けて詳細に準備してきたつもりではありますが、至らないところがありましたらお詫び申し上げます。山口県福祉用具供給事業者連絡協議会では、今後もこのような研修会を続けていきます。研修を通じて、福祉用具を利用される方やそれに携わる方のために、少しでもお役に立てればと思っております。



引受担当（宇部支部長 川地）

アンケートの結果

アンケートへのご協力ありがとうございました。
 参加者ですが、今更ながらケアマネの方の参加が我々福祉用具事業所の倍、全体の約半数にものぼっています。ケアマネの方の福祉用具への関心が高いということなのでしょう。
 福祉用具の必要度ですが、「おおむね必要」と我々事業所とケアマネがほぼ同数の答えですが「ケースバイケース」と答えたケアマネの多さは圧倒的でした。これはやはりケアマネが利用者を個別に見ている証拠のように思えます。さすがですね。続いて下図の福祉用具の役立ち度を見るとこれについてもケアマネの福祉用具に対する介護への有効性が明確です。ただ他の在宅介護職、施設勤務、医療職の方のこの比率は低く、まだまだ不満要素が高いということでしょうか？我々事業所として目立つのはわずかですが「使用方法に不満」でしょうか。あってはならないのでしょうか、専門家として私たちはどちらかと言えば福祉用具の側から利用者を見ているのかもしれませんが、対してケアマネは利用者の側から福祉用具を見ている…と言えるのではないのでしょうか。

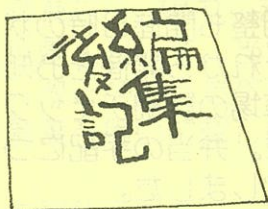
福祉用具の役立ち度						
	良くわからない	使用方法に不満	ケースバイケース	おおむね良好	予想以上	
介護支援専門員	5%	2%	13%	76%	4%	
福祉用具事業所	0%	6%	9%	76%	9%	
在宅介護職	0%	0%	40%	60%	0%	
介護施設勤務	20%	0%	50%	30%	0%	
医療職	5%	0%	45%	50%	0%	
行政職	0%	0%	0%	100%	0%	
その他	50%	0%	0%	50%	0%	
計	4%	2%	18%	70%	4%	

その他（主立ったもののみ）

- ・回答者の福祉用具事業者に望むこととして1位は信頼性であり、次がほぼ同じで迅速性でした。最下位となった価格よりも事業所への信頼・堅実性、迅速性が要求されることを確認しました。
 - ・福祉用具を決めるキーマンは利用者・家族が6割、ケアマネが4割でした。
 - ・第3回目となる研修会でしたが、初めての参加者が76%も占めました。
- これらの方々は意義ある研修会となったのでしょうか？アンケート結果ではまずまずの評価をいただきましたが、今後ますます充実させていかなば…と思いました。

その他 詳細は下記当ホームページに掲載しますので、参考にしてください。

山口県福祉用具供給事業者連絡協議会（福祉の風）HP <http://fukusiyogu.blog70.fc2.com/>
 いろいろ福祉用具の情報を掲載していますので、どうぞ活用してください。



その昔、吉本隆明は学生運動に関わる者にとって精神的よりどころとして君臨していた。その彼が高齢になって、朝日新聞の取材に「医師も介護士も高齢者を理解していない!!」と切って捨てるように答えていた。彼が言うには、全て画一的にしか対応しない。全てを違う人とは見てくれない。私を私として見てくれ……

翻って、先の介護保険の改正によって特例を認めない、一律的なものとしてさらに厳しくなった。利用者本位とか尊重と言う言葉は何だったのか、悪賢い業者の不正を逆手にとって、介護に関わる連帯責任として言葉巧みに書類を整備させて、互いにチェックしあう、がんじがらめの体制づくり……介護には人間性はなくなりつつある。
 こういった情勢の中で、研修会の最後に片づけのすんだ私たちスタッフの前に立って話された谷口先生の言葉は重要な意味を持つ。「福祉用具の業者さんではなく、専門家として信頼されること」この言葉を仕事の喜びとして私たちは頑張っていかなばならないと思います。（編集・文責 松永）